

[GRAPEVINE]

韓国のブドウ栽培

韓国園芸研究所果樹栽培科
農業研究官 張 漢翼

1. 韓国のブドウ栽培の歴史

韓国でいつからブドウが栽培されたのか、正確なところは明らかでないが、新羅時代の瓦當などにブドウの文様が用いられている（図1左）ことから、三国時代から栽培されていると推測される。韓国におけるブドウ栽培の最初の記録は朴興生(1375-1458)の「撮要新書」で、この後「農家集成」(1614)及び「穡經」(1676)などの古書に紹介されているのを見ると、1400年代からブドウが幅広く栽培されていると考えられる。朝鮮時代に入ると、申師任堂の「葡萄図」(図1右)や「白磁鉄画葡萄文壺」などの多くの文化財にブドウが重要な素材として用いられている。

果樹園の形で経済的な収益を目的として栽培が始まったのは1906年からである。現在の園芸研究所の前身である霧島園芸模範場にBlack Hamburgなど7品種を導入して栽培試験を行い、1901年から1910年までに世界各国から153品種が導入されたと記録されている。1970年代にはSchuyler, Portland, Alden, Steuben(スチューベン), Neo Muscat(ネオ・マスカット), Muscat Bailey A(マスカット・ベリーA, MBA), Seridan, Golden Queen(ゴールドデン・クイーン)など8品種が加工・生食兼用として優良品種に選抜され、農家に供給されており、醸造用としてはSeibel 9110などがフランスから導入されて栽培された。本格的な交配育種による品種育成は1963年から実施され、

今まで5品種が育種されて農家に供給されている。

2. 栽培状況

1) 栽培面積および生産量

韓国のブドウ栽培面積は、1986年には17,000 haであったが、1990年ブドウ酒の輸入解禁による醸造用ブドウの廃園化政策によって徐々に減少し、1990年には14,800 haになった。その後、ブドウの価格上昇によって1996年には27,196 haと増加し、1999年には30,500 haと過去最大の栽培面積となった。2000年には476,000トン(5,135億Won)を生産して全農業生産額の1.6%、果樹生産額の19.9%を占める作物として成長した。しかし最近再び栽培面積が減少して2001年には26,800 haとなった(表1)が、その栽培面積は当分維持されるものと思われる。現在10a当たりの生産量は約1700kgであり、70年代以後一貫して増加している(表2)。

地域別栽培面積は慶尚北道、忠清北道、京畿道の順で、このうち、慶尚北道が13,703 haで全体の49%を占めており、忠清北道が約16%、忠清南道が約12%、京畿道が約11%を占める(表3)。慶尚北道の金泉、慶山、永川、忠清北道の永同、玉川、京畿道では安城、金浦が主な栽培地域で、最近栽培面積が最も増加したのは全羅北道である。

栽培形態としては、ハウス栽培面積が90年代後半から年平均21%増加し、現在は1,431 haと全ブドウ

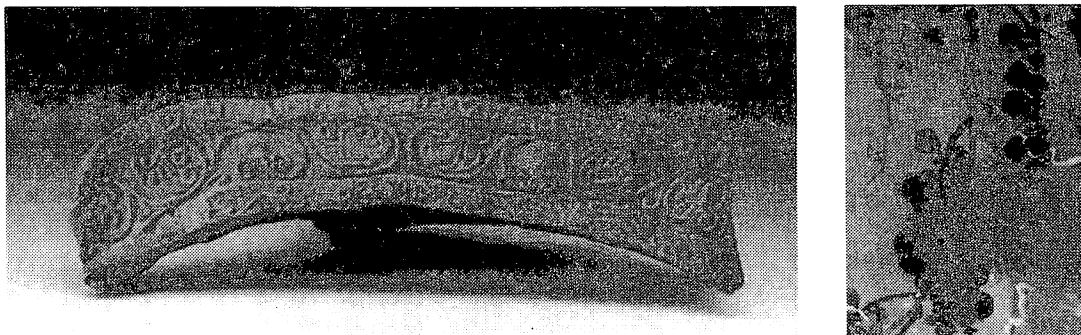


図1 新羅時代の葡萄文様瓦當(左)と朝鮮時代の申師任堂の葡萄図(右)

表1 韓国の主要果樹の年度別栽培面積

果種	年度別栽培面積 (千 ha)			
	1992	1995	1998	2001(1992 年対比増減率%)
リンゴ	53.0	50.0	34.7	26.3(50.4)
ナシ	10.3	15.8	24.6	25.5(147.6)
モモ	10.6	10.2	12.0	14.4(35.8)
ブドウ	15.0	26.0	29.9	26.8(180.0)
計	88.9	102.0	101.2	93.0

表2 韓国のブドウ栽培面積及び生産量

区分	70年	80年	85年	90年	95年	2001年
栽培面積 (千 ha)	6.2	7.7	16.2	15.0	26.0	26.8
生産量 (千トン)	34.1	56.8	150.0	131.3	316.4	453.7
10a 当り収量 (kg)	551	742	925	878	1,126	1,692

表3 地域別ブドウの生産現況(1998)

区分	京畿道	江原道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尚北道	慶尚南道	済州道
面積 (ha)	3,086	140	4,507	3,265	1,432	582	13,703	1,150	8
生産量 (トン)	50,549	1,559	51,200	41,335	18,530	7,112	193,897	12,512	118

資料) 農林水産部, 1998 年産作物統計 (1999 年 4 月発行)

表4 ブドウの簡易被覆栽培状況

年度	1995	1998	2000
面積 (ha)	2,820	5,843	8,112

表5 露地ブドウ品種別単価

品種	Campbell Early	巨峰	MBA	Sheridan
単価 (Won/kg)	1,296	1,472	1,698	1,081
相対比率 (%)	100.0	113.6	131.0	83.4

単価は 2000-2002 年カラットン問屋市場 8-12 月平均

栽培面積の約 6%である。このうち、無加温形態のハウス栽培面積が約 70%と推定され、将来も施設栽培はある程度増加すると考えられる。また、簡易被覆栽培も盛んであり、露地栽培面積の約 33%で 8,100 ha を占めている。簡易被覆栽培は、病害の発生が少なく、農薬の撒布を大幅減らすことが出来る。従って安全な農産物を要求する消費者の嗜好を満足させると共に、品質向上も可能であり、今後も簡易被覆栽培はさらに増加すると思われる。

韓国のブドウ農家 1 戸当りの栽培面積は、0.5 ha 未満の農家が 73%、1 ha 以下の農家が 95 %を占めており、他の果樹に比べて零細な構造をもっている。2 ha 以上の農家は 0.5 %に過ぎず、従って大規模機械

化は難しいが、比較的細かい栽培管理をする事が出来る。

2) 品種の構成と単価

わが国のブドウの品種構成は栽培規模に比べて単純である。主な品種は Campbell Early で 1997 年には全栽培面積の 67 %、18,884 ha であり、2002 年には 74 %、19,343 ha を栽培している。巨峰は約 12.6 %で 3,300 ha、Sheridan(セリダン)は約 5 %を占めるが、減少する傾向である。一方、MBA は Sheridan 品種を代替しながら徐々に増加しており、価格も比較的高い (表 5)。

表6 ハウスブドウの時期別単価

時期	5月	6月	7月
単価 (Won/kg)	8,447	4,666	3,123

単価は Campbell Early 基準、2000-2002 年カラットン問屋市場平均

3. 消費傾向

韓国の1人当りのブドウ消費量は最近急激に増加し、1996年度には1990年代初頭の2倍、2001年には1人当たり約9.9kgを消費し、全果実消費量の20%を占めている。消費傾向としては品質の高級化と、安全性に関する要因が大きくなり、環境及び安全性に対する関心が高まって親環境農産物の取引量が大幅に増加している。消費者は値段よりブランドや認証内容を重視し、品質認証品などの高品質商品の消費が増加し、1995年には168千トンから2000年には216千トンになった。

な制限が解消されると農家単位のワイン製造はもっと大きな発展が期待される。

4. 醸造用ブドウ栽培とワインの消費

韓国のワイン産業は1973年から始まって、70年代末にはワイン製造用のブドウ栽培がブームになり1988年には1,958 haの栽培面積で11,616トンのワイン用のブドウが生産された。当時は大きな4-5箇所のワイン製造会社があり、Seibel 9110を中心として単位面積当りの生産量が多いブドウを栽培した。しかし優秀な醸造用品種を使っていなかったこともあり、良い品質のワインが生産できずに消費者を満足させられなかったため、韓国のワイン産業は衰退し、現在はワイン用のブドウ栽培もほとんどなくなった。

ブドウ酒の消費量は毎年急増しており、1993年には490万リットルを消費し、最近では1,000万リットルを超えると推定される。従って現在はブドウ酒の消費増加によって斗山など5-6箇所で少量ながらブドウ酒が生産されており、ブドウ栽培農家がワイン醸造に参加して製品を作っている所もある。消費されているワインの90%以上が輸入ブドウ酒でフランス産が約50%を占め、その他アメリカ、スペイン、イタリア、ドイツ産などである。最近、一部の山間地で自生山ブドウや自生山ブドウと栽培種との交雑種と推定される改良山ブドウでワインやジュースなどの加工が行われており、比較的良い評価を受けている。現在農家でワインを生産するにはいくつかの多少厳しい法律的な制限があるが、この法律的